

明石の史跡（78）野之上城



明石市藤江に「野之上（ののうえ）」という字名がある（『兵庫県小字名集1－東播磨編』41頁）。バス停藤江小学校前から東北に100メートル余の水田から、北西に弓なりに伸びて、山陽電車の軌道を越え、民間企業の工場施設の敷地に埋没している。今から427年前に、この場所に城を構築しようとした人物がいた。

天正7年（1579）6月6日、別所長治は、児玉就英・乃美宗勝ら3名あての書状において、野之上に付城を一箇所申し付けたことを知らせている（乃美文書／新熊本市史料編2. 589頁）。

野之上の地続きに西進すること300メートル弱で、的射（まとい）の神事で知られる御崎神社にいたる。その西側を藤江川が流れる。河口まで400メートル弱を下れば、播磨灘にいたる。また南東に数百メートルで、『兵庫北関入船納帳』にその名が頻出する、松江の港がある。この立地条件は、看過することはできない。

天正7年（1579）5月20日、小早川隆景は、乃美宗勝にあてた書状において、三木救援のために、普請衆・鉄砲衆につづいて、兵糧千俵の搬送を決定。まず五百俵に鉄砲・玉薬をそえて、大船で東上させる。しかし岩屋と兵庫では小舟に積み替えることを指示している（同書642頁）。

兵庫で積み替えた分は、北東2キロほどで、花隈城にいたる。一方、岩屋でおろした積荷は、指呼の間の明石沿岸（松江・藤江）に向かったものと推測する。

しかも藤江の西900メートル弱で、谷八木川の河口にいたる。ここから西は、毛利の影響下にあった。

昭和14年（1939）1月15日、地鎮祭をおこない、スタートした川崎航空機明石工場（拙稿「林の城から船上城」『講座明石城史』101頁）。滑走路の西端に位置する「野之上」。規模不明とはいえ、別所長治の意志が結実していたとしても、遺跡の確認は、不可能である。